



2017年12月12日

東京学芸大学の現役大学生による、 発達障がいテーマにした子ども向けユニバーサルスポーツ バリアブレイクスポーツ開発のお知らせ

東京学芸大学 健康・スポーツ科学講座の鈴木聡准教授のゼミ（以下、鈴木聡ゼミ）を受講する学生が、発達障がいの有無に関わらず子どもたちが一緒に遊べて楽しめ、発達障がいの疾患理解が得られるスポーツの開発を国立大学法人 東京学芸大学、特定非営利活動法人 東京学芸大子ども未来研究所、一般社団法人 世界ゆるスポーツ協会、ゆるスポーツ YOUTH、公益財団法人 東京都公園協会、株式会社 毎日放送、塩野義製薬株式会社と進めてきました。この度、「様々な垣根を取り払う」という意味も込めて「バリアブレイクスポーツ」と名付けたスポーツが完成し11月26日（日）に代々木公園で開催したユニバーサルスポーツフェスタにてお披露目をしましたのでお知らせいたします。



（イベント当日の学生によるテストの様子）

発達障がい児は、生まれつきの認知や行動の特徴によって、対人関係やコミュニケーション、行動や感情のコントロール、学業などに困りごとを抱えることが多いと言われ、インクルーシブ教育^{*}や合理的配慮の推進が求められています。そのため、通常学級内でも発達障がいの有無に関わらず、子どもたちそれぞれの特性に合った学級づくりが必要となります。

そのような中、東京学芸大学と共に発達障がいやユニバーサルデザイン・心のバリアフリーに関心の高い団体・企業が集まりプロジェクトチームが2017年4月に発足しました。そのプロジェクトの中で、鈴木聡ゼミの授業として小学校、中学校、高等学校の保健体育教師になることを希望している現役大学生が、発達障がいの当事者等と共に、障害の有無に関わらず一緒に遊べて楽しめ、発達障がいについての理解が得られるスポーツの開発を進めてきました。そして、その開発したスポーツを多くの人に知って・経験してもらうことが「心のバリアフリー」の実現につながるという強い想いと共に生まれたスポーツが今回発表したバリアブレイクスポーツです。

プロジェクトチームに関わる各団体は、鈴木聡ゼミでのスポーツ開発を支援する形で関わっています。スポーツの開発のためのノウハウ提供に世界ゆるスポーツ協会が、多くの子どもたちに楽しんでいただけるイベント協力に東京都公園協会が、コンテンツ開発と広報面で毎日放送（テレビ番組「Kawaii

JAPAN-da!!」でプロジェクトを紹介)が、プロジェクト運営支援で塩野義製薬がそれぞれ参加しています。

今後、今回開発されたバリアブレイクスポーツは「心のバリアフリー」の実現のために、教育現場やその他イベント等でより多くの方々に楽しんでいただくように展開・発展する予定となっています。

●東京学芸大学 健康・スポーツ科学講座 鈴木聡准教授のコメント

本学の学生たちは、学校教育の現場では、発達障がいのある児童・生徒と関わる機会は多くあります。発達障がいのある児童とない児童とが一緒になったクラスを運営していく事は、今後教育に関わっていく学生にとっては将来直面するとても重要な視点の一つです。

一般的には、スポーツをあまり好きではないと言われる発達障がいの児童に対して、「スポーツの面白さを伝えたい」、さらには、「スポーツを介して発達障がいの有無に関係なく皆で楽しむ機会を作りたい」、そのような思いで、スポーツの既成概念・本質と向き合いながら学生たちと試行錯誤し活動してまいりました。

当プロジェクトに参加し課題を解決していくプロセスを通して、学生たちは子どもたちへの理解が深まることは勿論、今後多様な社会を生きていく子どもたちを育てていける人材になっていけるのではないかと期待しています。教育学部で学び、スポーツを核に教育を考える学生だからこそ出来ることがあると信じています。

○プロジェクト参加団体の説明

◆国立大学法人 東京学芸大学

東京学芸大学は、初等・中等教育におけるさまざまな教育実践や教科教育に関する有為な教育者を養成する教育の総合大学です。さらに次世代育成教育を主導する全国拠点大学となるとともに、広く海外に日本の教育成果を発信する大学をめざしています。

◆特定非営利活動法人 東京学芸大こども未来研究所

教員養成系基幹大学である東京学芸大学の持つ教育資源で社会を面白くしていくために活動している研究所。AI時代の教育を考える EDUAI プロジェクトや、変人類学研究所など、産学官民の様々なステークホルダーと連携して、新しい教育活動を展開中。

◆一般社団法人 世界ゆるスポーツ協会

年齢・性別・運動神経を問わず誰でも楽しめるスポーツの開発を目的としたクリエイター集団。今年4月には吉本興業とコラボし『AHOSPO GRAND PRIX』（あほスポ）なども開催。

◆ゆるスポーツ YOUTH

多様な現役大学生のメンバーによって構成された「世界ゆるスポーツ協会」公認の学生プロジェクト。

「スポーツ離れ」が叫ばれる日本の若者だが、それを逆手に既存のスポーツ文脈にとらわれないフレッシュな発想と機動力で、性別年齢国籍を超えた多様な取り組みを実践中。

若者とスポーツの新しい関係性づくりの実験に様々な領域でチャレンジしている。

◆公益財団法人 東京都公園協会

都立公園（43公園）、都立庭園（9庭園）、ビジターセンター（2施設）等を指定管理者として管理。スポーツ・レクリエーション事業においては、都立公園をフィールドとしたイベント等を通じて、誰もが身近にスポーツを楽しむことができる社会の実現を目指しています。

◆株式会社 毎日放送 テレビ番組「Kawaii JAPAN-da!!」

センバツ高校野球、高校ラグビーなど多様な学生スポーツコンテンツを保有し、また2021年ワールドマスターゲームズが大阪で開催されるなど、スポーツコンテンツが目白押しの中、「世界ゆるスポーツ協会」とプロジェクトチームを結成し、スポーツ文脈での誰もが楽しめる新しいコンテンツ開発を推進。また、番組としては「Kawaii JAPAN-da!（日本のファッションモデルが日本の文化を世界に向けて発信するカルチャー番組）」において、原宿系モデルを多数輩出するASOBI SYSTEMの柴田紗希(スポーツが苦手・・・)が、彼女の目線から体験取材する。

※放送予定日時：《12月12日（火）深夜1:59～2:30》【関西ローカル】。

※「スペースシャワーTV」《翌13日（水）朝7:30～8:00》でも放送。

※MBS 動画イズムにて放送終了後1週間見逃し配信あり。

◆塩野義製薬株式会社

塩野義製薬株式会社は大阪市中央区に本社を置く製薬企業です。「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」を企業理念に、中期経営計画では2020年に「創薬型製薬企業として社会とともに成長する」ことを目標に掲げています。中期経営計画の中で、シオノギが取り組むべき社会課題として「個人が生き生きとした社会創り」を挙げており、当プロジェクトはこの社会課題を解決する為の取り組みとして参画をしております。

以上

※ 障害のある子どもを含むすべての子どもに対し、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を、「通常の学級において」行う教育のこと

●問合せ先

国立大学法人 東京学芸大学 特定非営利活動法人 東京学芸大こども未来研究所	東京学芸大こども未来研究所(東京学芸大学内) 担当：高橋 TEL：042-312-4112 Mail：mikeyt@u-gakugei.ac.jp
一般社団法人 世界ゆるスポーツ協会	世界ゆるスポーツ協会 連絡先 Mail：info@yurusports.com
公益財団法人 東京都公園協会	公園事業部 担当：大塚 TEL：03-3232-3028
株式会社 毎日放送	MBS東京支社営業開発部 担当：吉廣・合田 TEL：03-5561-1245 Mail：tad-goda@mbs.co.jp
塩野義製薬株式会社	塩野義製薬株式会社 広報部 TEL：06-6209-7885

※各種スポーツの概要（開発学生コメント）

1. ようかいRUN ドリー

洗濯ばさみのようかいとなり、相手チームの体についている洗濯ばさみをできるだけ奪って、どれだけ自分たちの洗濯物につけられるかを競います。

ADHDの子の衝動性に注目し、衝動的に動いても大丈夫！むしろ誰もが動きたいと思えるようなスポーツにしました。鬼ごっこにヒントを得ることで、誰もが楽しく夢中になって、思いっきり動けるようになっています。



2. きび〜っす

桃太郎たちと小鬼軍団にわかれます。桃太郎たちは鬼を仲間にするために、たくさんきびだんごを投げます。小鬼軍団は桃太郎たちの仲間にならないように飛んでくるきびだんごを叩き落します。たくさん投げ込むことができるのか、それを防ぐことができるのかを競うスポーツです。

言葉の裏が読み取りづらい、複雑なルールや動きに困惑してしまう、という自閉症スペクトラム症の特徴をもとに考案しました。わかりやすいルール・単純な動作・失敗することが当たり前、という3つの柱にこだわってえました。



3. はこびまショー！！

水族館でショーに出るアシカになりきって、探し出したボールを頭の上から落とさないように気をつけながら、飼育員さんのところへ届けるスピードを競うスポーツです。

競争で焦るとボールを落としやすくなるというゲームの構造によって、ADHDの子供が感じている自らの注意や行動をコントロールする困難さを楽しく体験できるようにしました。



4. ペンペこりんピック

腹ペコなペンギンになりきって、目の前に広がる障害物をペンギン歩きで突破しながら、えさを集めに行くスポーツです。3対3のチーム対抗でどちらのチームがえさをたくさん集められたかを競います。

自閉症スペクトラム症の特徴である、集中力の高さと、チームでやりたいけど周りの子とコミュニケーションがうまく取れないという部分に焦点を当て、「個人としてひたすら頑張ることが気づいたらチームに貢献しているようなゲーム」をコンセプトにスポーツを考案しました。

